

日本トランスオーシャン航空株式会社

〔 自2018年4月 1日
至2019年3月31日 〕

貸借対照表

2019年 3月 31日 現在

(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	16,279,416	流動負債	8,860,602
現金及び預金	472,164	営業未払金	4,554,412
営業未収入金	5,509,315	1年内返済長期借入金	1,316,214
貯蔵品	390,774	未払金	188,924
未収入金	378,375	未払法人税等	1,643,247
未収還付消費税	141,285	未払費用	998,898
短期貸付金	9,108,450	前受金	62,225
前払費用	113,585	預り金	91,099
その他の流動資産	165,465	その他の流動負債	5,580
固定資産	47,637,643	固定負債	12,789,917
有形固定資産	44,419,409	長期借入金	8,080,249
建物	1,096,173	退職給付引当金	4,517,411
構築物	1,079	長期未払金	16,542
機械装置	310,248	資産除去債務	29,650
航空機	42,699,293	預り保証金	132,645
車両運搬具	27,477	その他の固定負債	13,418
工具器具備品	228,308		
建設仮勘定	56,828		
無形固定資産	262,252	負債合計	21,650,519
ソフトウェア	251,205	(純資産の部)	
その他の無形固定資産	11,047	株主資本	
投資その他の資産	2,955,981	資本金	4,537,200
投資有価証券	536,985	資本剰余金	
関係会社株式	522,031	資本準備金	3,000,000
繰延税金資産	1,829,500	資本剰余金合計	3,000,000
その他の投資	67,464	利益剰余金	
		利益準備金	125,000
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	34,560,637
		利益剰余金合計	34,685,637
		株主資本合計	42,222,837
		評価・換算差額等	
		その他有価証券評価差額金	43,702
		評価・換算差額等合計	43,702
		純資産合計	42,266,540
資産合計	63,917,060	負債・純資産合計	63,917,060

損 益 計 算 書

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月 31日

(単位:千円)

科 目	金 額	
売上高		41,891,898
航空運送収益	41,891,898	
売上原価		29,141,734
航空運送費	29,141,734	
売上総利益		12,750,164
販売費及び一般管理費		3,920,176
営業利益		8,829,987
営業外収益		174,856
受取利息及び配当金	118,267	
その他	56,588	
営業外費用		550,704
支払利息	43,634	
その他	507,070	
経常利益		8,454,139
特別利益		346,807
固定資産売却益	346,807	
特別損失		41,392
固定資産処分損等	5,122	
減損損失	36,270	
税引前当期純利益		8,759,554
法人税、住民税及び事業税		2,808,988
法人税等調整額		△ 224,532
当期純利益		6,175,098

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式

総平均法による原価法

② その他有価証券

a) 時価のあるもの

決算日の市場価格に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定。)

b) 時価のないもの

総平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(3) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を適用している。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(13年)による定額法により、その発生年度から費用処理することとしている。

数理計算上の差異については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(13年～15年)による定額法により按分した額をそれぞれの発生年度の翌事業年度から費用処理している。

4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の処理

原則として、繰延ヘッジ処理を採用している。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については、振当処理によっている。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式としている。

貸借対照表に関する注記

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

航空機 12,787,406 千円

(2) 担保に係る債務

長期借入金 9,205,464 千円

(注) 上記の借入金は、1年以内返済予定額を含んで いる。

2.有形固定資産の減価償却累計額 12,851,116 千円

3.有形固定資産の圧縮記帳累計額 18,256 千円

4.保証債務の明細

被保証者	保証金額	被保証債務の内容
J T A インフォコム(株)	—	短期の銀行借入債務 保証限度額 200,000 千円
(株)JAL JTA セールス	—	短期の銀行借入債務 保証限度額 200,000 千円
合 計	—	

5.関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	14,508,875 千円
長期金銭債権	—
短期金銭債務	3,994,370 千円
長期金銭債務	—

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因

繰延税金資産の発生の主な原因は、退職給付引当金、未払賞与、貯蔵品評価損、固定資産減価償却超過額の否認等であり、繰延税金負債の発生原因は、前払年金費用、資産除去債務に対応する除去費用、その他有価証券評価差額等によるものである。

関連当事者との取引に関する注記

1. 親会社および法人主要株主等

(単位:千円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (注3)	科目	期末残高 (注3)
親会社	日本航空(株)	被所有 直接 72.8%	原材料購入 業務受委託 資金貸借取引 その他	役務提供収入整備、 役務提供収入旅客 GH、その他 (注1)	2,282,867	営業未収入金 (注2)	5,027,005
				航空燃料費 (注1)	7,158,595	営業未払金	3,305,343
				販売手数料 (注1)	1,165,442	未払費用	80,013
				地上サービス費 (注1)	4,123,807		
				その他の費用 (注1)	1,952,201		
				資金の貸付及び借入 (注4)	—	短期貸付金	9,108,450

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1) 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定している。

(注2) 収入管理業務委託に伴う旅客収入、貨物収入の営業未収入金(4,247,188 千円)が含まれている。

(注3) 取引金額には消費税を含めていない。期末残高には消費税を含めている。

(注4) JALグループが運営するCMS(キャッシュ・マネージメントシステム)による取引のため、取引金額は記載を省略している。

また、利率については、市場金利を勘案し合理的に決定している。

1 株当たり情報

1 株当たり純資産額	4,675 円 50 銭
1 株当たり当期純利益	683 円 09 銭